

2018/1/14

(ブログ)

ほんまの御利益 (ごりやく)



ボスから、第三店舗のおおよその候補地を絞り込んだと電話がありました。

喜んで

「ありがとね。おねげい、しまっす」

といった後、ボスは、それには触れず、電話の向こうで、妙に静かな声になって

「なあ、シンさん、去年の今頃は大変だった。

元旦三が日明けに、500キロほど離れた三重県にある「お伊勢さま」と、ちょっと足を延ばして、友達が「とても霊力のある場所だから」と教えてくれた「松尾観音寺」の龍神さまにお参りに行った。

ところが、形勢大反転、それまでの度重なる不運、苦難が良くなるかと思いきや、まるで正反対なことばかり起きた。

それこそ地獄だったな。

それまでのとは比べ物にならないほど、酷かった。

それで、一時わしは龍神さまを強く恨んだ。

「いったいわしが、何をした？なぜこれほどの目に、これでもか、これでもかと遭わねばならんのじゃ。神さまといえど、理不尽極まる」とな。

しかし、今思うと、その地獄はわしには、是が非でも必要なものだったような気がする。

神さまは、必ずしも「わしら」が思っているような、示し方ややり方でその望みや願いを叶えてくださるとは限らないようだ。

むしろ、「わしら」が思いもよらない全く違うやり方で、望みや願いを叶える「ヒント」だけを示してくださることの方が、はるかに多いような気がする。

示し方、叶え方が違うことや、それは「ヒント」にしか過ぎなくて、そのあとそれを各人がどう活かすかは、当の「わしら」に任されている、の二段構えの判じ物になっていて、そうそう手抜き容易な「お手軽簡単なもの」にはなっていないらしいこと。

それに気づくのに随分と時間がかかったが、今は、それに気づいてよかったと思っている。
龍神さまは本当にありがたい守り神さまだと感謝しているよ」

そういえば、少し前に、ボスと遭うきっかけにもなり、その地獄の発端ともなったボスの息子さんが、ボスの病氣平癒を願って「大國魂神社」のお守りを買ってきてくれたと、嬉しそうに話していましたっけ。

「これが、ほんまの御利益（ごりやく）だわなあ。シンさんとも逢えたし」とも。

それはとても「サンキュウでうれしいみったい」ですが、そのこと以上に、確かに、ひとは何か気づくと

「1年でこれほど変わることが出来るのだ、なあ」と、ちょっと、ワタシ、ネパール人、びっくりみったいねえ。ほんと。

本日は、英文は遠慮いたします。